

令和4年度 学校評価書

四万十市立中村中学校
 学校長 山崎 利彦 印

1. 学校教育目標

誇り高く、夢大きく、こころ美しく、よりよい社会を創ろうとする生徒の育成

2. 本校の現状

本年度の生徒数は416名であり、通常学級13学級、特別支援学級4学級を有し、幡多郡内で最も多い生徒数を有する学校である。全体的に生徒は明るく、落ち着いた学校生活を送っており、無言清掃の取組なども校風として根づき、教職員と生徒が協力し“高知県 No1 の学校づくり”を目指し取り組んでいる。

国や県の研究指定をうけながら、日々授業改善に取り組んでいるものの、昨年度は高知県学力定着状況調査で十分な結果を残すことができなかった。数値的には1年生（現2年生）は、全国平均差で国語+1.8, 社会-5.6, 数学-5.4, 理科+1.0, 英語-1.3、2年生（現3年生）は国語-0.7, 社会+1.6, 数学-0.2, 理科±0, 英語+2.9であった。一方で、5月に実施された3年生の全国学力・学習状況調査では、国・数共に全国を上回ることができたことは一定の成果としてとらえている。

学校の課題としては、不登校生徒や不登校傾向の生徒が全体的に多く、個別対応や関係機関と連携した取組が必要となっている点があげられる。また、学力保障の観点で、授業改善を進めることは念頭に置いたうえで、学力的に厳しい生徒への手立てを講じることが必要だととらえている。また、昨年度の大川筋中、蕨岡中の統合に引き続き、後川中、下田中校区も本校の校区となったことから、小規模校から編入した生徒の学校生活を見守ることや地域との連携のあり方に配慮していきたい。”

3. 本年度の評価項目

〔1〕 学力向上

- ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組
- ②子どもにわかる授業づくり
- ③予習・復習の質と量を高める取組
- ④資質・能力の育成を目指した授業改善

〔2〕 生徒指導

- ①いじめの防止等のための取組
- ②不登校への総合的な対応のための取組
- ③基本的生活習慣の確立

〔3〕 学校・家庭・地域の連携・協働

- ①（中）小中の円滑な接続の推進
- ②みんなであいさつ運動
- ③地域と連携した活動

〔4〕 働き方改革

- ①業務改善に向けての意識改革
- ②連続して80時間を越えない学校運営

〔5〕 特別支援教育の充実

4. 自己評価

評価項目		評価指標	取組状況・成果	評定	次年度の方策
大	中				
〔1〕	学力向上 ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組	・計画的な校内研修、教科主任会、教科会を実施し、授業改善を進めている。	○研究主任が中心となり、計画的な校内研修を継続した。特に今年度は、隔週で小企画会を実施し、研究推進の方向性を確認して取り組んだ。 ○教科主任会を充実させ、各教科会を毎週実施した。教科会では、指導案検討、学力調査に向けた対応や結果分析等、その都度必要な内容で協議を深め、授業改善を目指した。教科会に対する教員の有用感はとても高い。 ●授業改善の取組を学力調査結果に一定反映できたが、資質・能力を育成する観点で、授業改善は継続した課題である。今後も生徒の実態に応じた教材研究と授業実践を推進する。	3	①研究指定事業の取組を柱にし、計画的な校内研修を行う。【継続】 ・小企画会での確認 ・授業改善への意識統一 ・授業の相互参観 等 ※教科主任会、教科会は定例化 ②校内研修と職員会の区別に見通しを立てた取組の推進【継続】 ・校内研修の時間確保 ③授業改善に向けた取組の進捗管理(点検・検証)の徹底

(1) 学力向上

<p>②子どもにわかる授業づくり</p>	<p>・授業アンケートで「各教科の基本的事項は理解できている」と肯定的に評価する生徒を98%以上。 ・授業アンケートで「自ら課題を見つけ解決しようとした」と回答する生徒を85%以上。 ・県学力調査結果で全国平均より+2P以上。 <u>(学校経営計画「知」の指標及び授業改善プランの取組の重点③に関連)</u></p>	<p>◇生徒のアンケートでは、「授業を理解できている」の肯定的に評価の生徒⇒91.2%であった。目標の98%には届かなかった。 ◇指標の「授業で自らの課題を見つけ解決しようとした」という項目は、生徒の自己評価では84%。指標は概ね達成。 ◇県学力調査結果で全国平均との差 1年 国語+5.8 社会+1.8 数学+8.7 理科+4.2 英語+6.9 2年:国語+0.4 社会-3.6 数学+0.9 理科+2.4 英語-3.7 ○授業改善の方向性は、学校全体で確認し、教科会で統一して取組を進めることができている。 ○学力調査に向けては、スケジュールを立て、計画的な取組ができた。 ●授業の理解度は指標には届かなかったが、約91%の生徒が授業を理解できると肯定的に捉えている。一方で教員は、授業内容の理解は十分でないと考えており、生徒の自己評価に満足しない取組が必用。 ●県学力調査では、1年生は概ね目標を達成できたが、2年生に課題が残っている。</p>	<p>3</p>	<p>①教科会の中で、授業実践を通じた授業改善の状況把握を行う。 ・教科長が授業を参観できる時間割の工夫 ・教員相互の授業参観 ・ノートの記載内容に基づいた協議 ・宿題や学力調査に向けたスケジュールの作成、確認、点検 ②各教科で資質・能力を育成する授業づくりを学校体制として進める。 ・各教科の見方・考え方の再確認 ・教科長、教科の教員の授業の相互参観 ③短いサイクルで生徒の達成状況(理解度)を見取り、指導の改善に活かす。 ・授業内容とステップタイムの内容をリンクさせ、基礎基本の確実な定着を図る。</p>
<p>③予習・復習の質と量 を高める取組</p>	<p>・見通しを持ち計画的な学習ができるよう、月毎の学習計画表を学年毎に作成し配布する。 ・教科会と学年部会が連携して宿題を確認し、毎日の提出率98%を目指す。<u>(学校経営計画「知」の指標と関連)</u></p>	<p>○毎月の学習計画表は、主幹教諭が責任もって作成し、配布・掲示ができた。 ○宿題は、支援員の協力のもと、各学年部で確実に点検を行い、事後指導に活かした。 ●「提出率98%以上を目指す」としていたが、提出率は86.6%に留まった。宿題をやってこない生徒が固定化傾向にある。居残り等を学年部で行い、宿題提出に務めている。</p>	<p>4 3</p>	<p>①今年度と同様に学習計画表を作成、配布【継続】(主幹教諭) ・可能な限り、計画に沿った実施に留意する。 ①学習計画に基づく宿題を継続 ・できていない生徒の居残り【継続】 ②生徒の実態(特性)に応じて、宿題の内容ややり方の工夫・配慮。【継続】</p>
<p>④資質・能力の育成を目指した授業改善</p>	<p>・各教科の見方・考え方を働かせた授業づくりについて、教材研究を深め指導力を高めている。(アンケート90%以上)</p>	<p>○「教科会での話し合いは、自己の指導力向上につながった。」と肯定的に評価をする教員は100%(積極的肯定は83.3%)。 ○各教科では、教科会を中心として問題解決的な授業づくりに努めた。特に協働校事業の取組では、中村小学校と連携して、系統的な指導について研究を深めた。 ●教員が目指す授業の方向性と生徒の学びの姿に差がある。</p>	<p>3</p>	<p>①各教科で資質・能力を育成する授業づくりを学校体制として進める。 ・各教科の見方・考え方の再確認 ・教科長、教科の教員の授業の相互参観 【再掲】 ・中村小との合同研修、教科毎の指導案検討</p>

〔2〕 生徒指導	①いじめの防止等のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に学校生活アンケートを実施し、生徒の状況を把握するとともに、必要に応じて面談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期毎の学校生活アンケートは、計画的に実施し、生徒の状況を把握した。2学期に実施した際には、事後に生徒と面談を持ったことが良かった。面談週間の設定はよかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ①各学期に学校生活アンケートの実施 ・面談週間を設定し、生徒の気持ちをフォロー。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による玄関前での朝の声かけを継続する。(学校経営計画「横断」の指標と関連) ・未解決の「いじめ」事案をつくらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会執行部と連携し、玄関での教職員による朝の声かけは100%実施。 ○学年職員室で全教職員が1日1回は仕事を行い、生徒を見守る体制を継続した。 ●相手に嫌な思いをさせるいじめ事案が数件あった。但し、事後の対応を行い、継続した未解決のいじめ事案は現段階ではない。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組を継続 ①教職員による玄関前での朝の声かけを実施 ②学年の職員室で、全教職員が1日1回は仕事をする ③生徒会執行部の挨拶運動
	②不登校への総合的な対応のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を充実させ、凡事徹底を図る。アンケートで達成が90%以上。 ・生徒に達成感や満足感を感じさせる。(学校経営計画「徳」の指標と関連) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の自己評価(肯定的評価)は、とても高い。 ・人の話を静かに聴ける 95.1% ・友だちの嫌がる言動は慎む 96% ・あいさつ 91.8% ・返事 94.9% ・朝読書にきちんと取り組める 89.7% ・掃除はきちんとできる 93.7% ・行事や学級活動は楽しい 91.5% ●生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう、子どもたちの活躍を認め、共感的態度で聞き、自尊心を高めるよう取り組んできた。前年度と比較し、朝読書の項目と学校が楽しいの項目が少し低下している。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒会活動・専門部の活動を通じた生徒の育成 ・生徒に校則の見直しの協議を促す取組。(生徒会執行部) ②生徒が活躍できる場の設定(学校行事) ③意図的な肯定的評価“ほめる”指導の継続 ④学級間格差の解消 ・学年で統一した取組の徹底
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援会、ふれあい支援会を定期的実施し、情報共有と個別支援につなげる。 ・小学校との連携を強め、入学前の事前共有と個別支援の充実。 ◎出席日数を昨年より1日も引き上げる。 ◎出席率を全国平均まで引き下げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内支援会は、毎週金曜日に計画的に実施できた。支援会の中で支援の見通しが持てて良かった。 ○事前に小学校と協議を行い、聞き取りや情報交換を行った。 ○不登校生徒の出席状況は60%改善 ●ふれあいとは連携を図っているものの、担任がふれあいに通所している生徒に会いに行ける時間が十分に取れていない。 ●新規の不登校生徒の出現率は、5.5%である。また、現段階で本校の不登校生徒は23名であり、出現率そのものは依然として高い。 ●コロナ禍の中で、体調不良や心配を抱える生徒も多く、保健室へ来室する生徒も多い。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 【取組の継続】 ①今年度と同様に、校内支援会を定例化する。 ②朝の段階で、SSWや担当者がその日の動きや支援の方向を確認して生徒に対応する。 ③気持ちメーターの確認 ④別室対応の教職員間の共通理解⇒組織としての対応 	
③基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取率を95%以上にするとともに、生活習慣に関するアンケートの肯定的評価を90%以上とする。(学校経営計画「体」の指標と関連) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇朝食摂取率は全体的によい傾向 1年98.8%、2年94.1%、3年89.3% ◇睡眠時間7時間以上 1年67.4%、2年69.1%、3年48.0% ◇部活動満足度 90% ○今年度も栄養教諭による指導を給食の時間帯に実施できた。 ●帰宅後の中学生の生活実態を踏まえると、睡眠時間7時間以上の睡眠は難しい。メディアの長時間使用の課題を改善していきたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ①養護教諭を中心にして、今年度の取組を継続 ・保健室便り等で啓発を行う 	

〔3〕 学校・家庭・地域の連携・協働	①小中の円滑な接続の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・協働校事業の取組を通して、中村小とは指導案検討や教材研等を定期的の実施する。 ・中村小との合同校内研修会を年3回実施し、教科の小中の系統性について協議を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協働校事業の取組では、中村小学校と連携して、系統的な指導について研究を深めることができた。 ○授業公開に向けては、相互の授業を参観し合うことも行い、研鑽を高めた。また、研究の円滑な推進に向けては、実務者会議を定例化し、小中で方向性をもった取組ができるようにした。中村小との合同校内研修会も3回実施。 ●中村小との連携はできているが、他の校区の小学校とは教科間の連携は少ない。「校区の教育を考える会」等で、連携を深めていきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ①社会、外国語は、中村小と連携した教材研究の実施【研究指定】 →全校体制で取り組み、全体のものとする。 ②中村小との合同研修会実施（年3回） ・定期的な実務者会議の実施
		<ul style="list-style-type: none"> ・中村中校区の教育を考える会の取組を確実に実行。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中村中校区の小中の教員が集まり、夏の合同研修会を開催できた。 ○学校再編で、新しく校区となった小学校もあったが、従前の取組を引継ぎ、小中連携を図ることができた。 	3		<ul style="list-style-type: none"> ①校区の教育を考える会を通じた取組の共有化【今年度の取組の継続】
	②みんなであいさつ運動	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域の方より挨拶に関する肯定的評価90%以上を目指す。 ・PTAの挨拶運動の実施(2学期以降) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒自身は、92%ほどが挨拶をしていると肯定的に評価している。学校評価でも、全体的には保護者の評価も高い。 ○生徒会執行部が中心となって、毎朝の挨拶運動が継続している。 ○PTA挨拶運動は、継続的に実施。 ●挨拶は生徒によって個人差がある。自分から言える生徒を育てたい。 	3		<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組を継続 ①教職員による玄関前での朝の声かけ ②生徒会執行部の取組の強化 ③PTAの挨拶運動(水曜日) <p>【継続】</p>
③地域と連携した活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部運営委員会の確実な実施。 ・コロナの状況を見極めて、地域と連携した活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間2回の地域学校協働本部運営委員会を計画・実施。意見交換の場としても大切な会である。 ○コロナ禍の中ではあるが、3年生職場体験や1・2年生のふるさと教育の中で、地域に出向いたり外部講師を招いた学習を行うことができた。 ●コロナ禍の中で、たびたび予定が変更となり、ご迷惑をかけた点があった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ①地域学校協働本部事業からコミュニティースクールへの移行 ・委員の委嘱 ・年3回の会の実施 ②朝読書の読み聞かせボランティア、放課後学習 <p>【継続】</p> ③地域人材を活用する教育活動の推進		
〔4〕 働き方改革	①業務改善に向けての意識改革	<ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアで職員の勤務時間を把握し、勤務が長い教員に声をかけ、状況によって面談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日20時には退校、月2回19時までには全員退校ができるよう、学校行事や業務を見直し、勤務時間の短縮を実現できるよう努めている。 ○月ごとの報告様式で職員の勤務時間は管理している。全体的には、退校時刻を意識し、総勤務時数も減少傾向である。 ●部活動の顧問は、物理的に言って、一定の超過勤務は生じる。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日20時には退校、月2回は19時までには全員が退校ができるよう、学校行事や業務を見直し実現できる月を増やす。 <p>【継続】</p> ②教育課程を見直し、5時間の設定等を工夫。
	②連続して80時間を越えない学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革が進むよう、職員会の実施時間・内容を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●在校等時間の上限に関する方針の順守(月45時間、年360時間)を到達できた教員27%であるが、全体的には、勤務時間は縮小傾向。 ○長期休業中の休暇8日以上取得93% 	3		<ul style="list-style-type: none"> 【上記①と同じ】 ○年間を見通した教育課程の編成に努め、勤務時間内に諸会議ができる時間を確保する。
〔5〕	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回教育相談や外部機関を活用し、生徒の見取りを行い、個別支援の充実につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○担当教員を中心として、特別支援教育の充実を図った。 ○月に1度、UDの視点に立った授業実践ということで、個々の教員にアンケートを実施し、集約、フィードバックを行った。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度に準じた取組の推進と継続 ・巡回教育相談 ・UD教育の研修 ②個別の支援体制の強化・充実

4段階評価(4 目標を十分に達成、 3 ほぼ目標を達成、 2 やや不十分、 1 改善を要する)

5. 学校関係者評価

<第2回地域学校協働本部運営協議会(2/22)で協議、意見交換>

2月22日(水)の18時から中村中学校図書室で、「中村中学校地域学校協働本部運営協議会」が開催されました。地域学校協働本部は地域と学校が手をつないで子どもたちの育成を図るため、学校支援(部活動、ゲストティーチャー、見守り、読み聞かせ等)や地域貢献(ウルトラマラソンや清掃活動のボランティア等)の活動を応援しています。今回は学校から学校評価について説明を行い、その後、委員のみなさんから学校関係者評価としてご意見をいただきました。その時に話された意見を下記にまとめます。

- 学力も大事だが、子どもの個性をゆっくり見守りながら伸ばすこと、人間性を磨くことをやってもらいたい。そのために地域の人材も利用してほしい。人間関係が希薄になったコロナの間、改めて学校の必要性がより大きくなった。学校の役割を再認識することが大事ではないか。
- 地域の人から、中村中学校の生徒はよくあいさつをしてくれる、と聞いている。
- 読み聞かせの時間の教室での様子が変わってきた。生徒も先生もいっしょになって参加してくれている。
- 生徒の進路を保障するため、高校との連携を密にしてほしい。
- 不登校の子どもは人間関係が苦手だが、自分がやりたいことや楽しいと思えることがあると気持ちが登校に向いてくる。その子が輝ける場面を作ってほしい。
- 中学生で不登校でも、高校生になったら出席日数が足りないと留年になることなども本人はしっかり考えているし、他の生徒にも不登校だったことをオープンに話す場面も見られる。結構子どもは強い。高校進学や転学など違う環境になったら登校できるケースも多い。
- 学校に行かないという選択を小学1年生からしている家庭を見ると、多様性の世の中なのかとも思うが、義務教育なのにと、どう接したらよいのか悩ましい。
- 生徒の職場体験学習では、ぜひ地域のお力を借りたい。また、本当に地域の皆さんが快く引き受けてくれているのがありがたい。
- 社会で生きていくためにはいろいろな経験をつむことが必要で、学校も子どもの成長に欠かせないものではないか。

今後も子どもたちのために地域・保護者・学校と一緒に活動していきたいと考えていますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。